神奈川県

第43回「全日本中学生水の作文コンクール」

神奈川県優秀作文集

令和３年10月

「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、次代を担う中学生の皆さんに、日常生活での体験あるいはご両親や先生方から学び聞いた話をもとに、水について考えていただこうという趣旨で、昭和 54 年から「水の週間」の行事の一環として実施しています。

神奈川県では、平成 19 年度から新たに水源環境保全・再生施策の取組みがスタートしたことを機として、平成20年度から神奈川県独自の賞として水源環境賞を創設しました。

神奈川県内では 547 編の応募があり、神奈川県表彰として最優秀賞１編、優秀賞４編、入選３編及び水源環境賞３編を選定しました。

この 11 編について、このたび優秀作文集としてとりまとめました。いずれも、生活や学校での体験を通して、水について理解を深め、水を大切にしていこうとする中学生の皆さんの気持ちがよく表現されています。ぜひご一読ください。

第43回「全日本中学生水の作文コンクール」は、次のとおり行われました。

１　応募要領　①テ ー マ…「水について考える」（題名は自由）

②対　　象…令和３年度に神奈川県内の学校に在学しているか、または神奈川県内に居住している中学生

③原稿枚数…400 字詰原稿用紙４枚以内で日本語により表記された個人作品

④あ て 先…神奈川県内の場合、神奈川県政策局政策部土地水資源対策課水政室

⑤募集期間…令和３年３月１日～令和３年５月７日（到着分有効）

⑥版 権 等…〇応募作品の版権は水循環政策本部、国土交通省及び神奈川県に帰属する。
〇応募作品は自作の未発表のものに限る。
〇応募作品の返却は行わない。

２　神奈川県内応募状況

応　募 学校数	応　募 総　数	学年別（編）		
		１年	２年	３年
12 校	547 編	292	245	10

３　審　　査

(1) 都道府県審査　応募作品について神奈川県が審査を行い、神奈川県表彰として最優秀賞１編、優秀賞４編、入選３編及び水源環境賞３編を選定。最優秀賞及び優秀賞の計５編については、中央審査対象作文として国土交通省に推薦。

(2) 中 央 審 査　都道府県の地方審査を経た作文を対象に、中央審査会（国土交通省主催）で最優秀賞１編・優秀賞９編・入選29 編を選定した。

「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年５月31日　閣議了解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年８月１日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他の関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

水循環基本法（平成26年法律第16号）

第十条　国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水の日を設ける。

２　水の日は、八月一日とする。

３　国及び地方公共団体は、水の日の趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

＊表紙写真

「楽しい水遊び」　海老名市　橋爪　涼さん撮影

（令和元年度神奈川県企業庁　水道に関する作品コンクール優秀賞作品）

目次

最優秀賞

豊かな森を育むために……洗足学園中学校一年　中井美希

優秀賞

水を使うということ……横浜市立大鳥中学校三年　黒澤心
水を使うということ……洗足学園中学校二年　佐藤明莉
人と水との関わり……洗足学園中学校二年　水谷真菜
生まれ変わった水と共に……洗足学園中学校一年　山下莉采

入選

みんなの水……横浜市立南高等学校附属中学校一年　佐々木久美
人口密集地の水循環……洗足学園中学校一年　野口明日美
水と環境……洗足学園中学校一年　三輪桃愛

水源環境賞

「水」はすこやかな森からの贈り物……洗足学園中学校二年　中田莉世
川を守るために……洗足学園中学校二年　渡邉真央
水を守るためには……洗足学園中学校二年　渡邉莉子

最優秀賞

豊かな森を育むために

洗足学園中学校
一年　中井　美希

蛇口をひねると、きれいでおいしい水が当たり前のように出てくる今の日本。もし、水道から水が出てこなくなったら、たとえ一日でも私は困り果ててしまうでしょう。

水を守り続けるために、自分には何ができるのでしょうか。

水は森に育まれます。そして水は森を育みます。

私はよく家族とトレッキングに行きます。「どんなところに行きたい？」と問われると、私は必ず「滝」と答えます。大きな岩を乗り越え、滝つぼまで行き、滝のすぐそばで浴びる水しぶきが好きです。

滝のある山が好きな理由は他にもあります。美しいせせらぎ、しっとりとした空気、多種多様な植物、ふかふかとした土。美しい滝への道のりは、豊かな森を感じられます。

ふかふかとした土は、上に蓄積している落ち葉や、土に住む動物や微生物たちの動いた跡やフンなどによってすき間ができていて、スポンジのようになっています。

スポンジのような森の土に吸い込まれた水は、その上にかぶさっている落ち葉によって蒸発しにくくなり、じっくりと時間をかけて、地下へ地下へとしみ込んでいきます。地中の小さなすき間を通ることで、ちりや汚れがとれるとともに、土や岩の中のミネラルが溶け込んでいきます。そうして、おいしいきれいな地下水ができます。

豊かな森が、ときには何十年もかけて、水を育てているのです。

では、森林が多ければ、五十年後、百年後も水は守られるのでしょうか。

日本の国土面積に占める森林面積は六割以上あります。ですが、そのうちの四割を占める人工林には、放置されてしまった荒廃林がたくさん存在しています。

荒廃林が増えた理由には、戦後に広葉樹を伐採して杉やヒノキを植林したものの、安い外国産の木材が輸入さ

れたために国産の木材の価格が暴落し、採算が合わず放置されてしまったことや、後継者不足、就業者の高齢化などがあります。

間伐や枝打ちなどの整備がされていない人工林の中は、まるで満員電車のように細い木々が立ち並び、林の中は日光が届かず真っ暗で、草木の根が張りません。そのため、雨が降ると表面の土が流されてしまい、雨が土にしみ込まないので、地下水もできません。

このような状況で大雨や台風などが発生した場合、根が水を吸いきれずに、土砂崩れが発生しやすくもなってしまいます。ただ木を植えて増やすだけでは、水を育む豊かな森にはならないのです。

では、人の手で豊かな森を作ることはできないのでしょうか。

人工林であっても、木を植えた後、下草刈り、枝打ち、間伐などの手入れを継続することで、残した木の幹が太くなり、しっかりと根を張れるようになります。

手入れをすることで、森の中に日光が差し込み、今まで発芽できなかった色々な木の種子が育ち、本来の豊かな森への再生を目指すことができます。

日本で利用する木材の七割以上は、安い輸入木材です。間伐材も出荷すると赤字になるため、山から出さないことが主流です。日本の森林資源は使われず、使われないから森が荒廃していくという現状があります。

日本の木を使い、林業が盛んになることで豊かな森が育まれているのです。

今の私にできることは、現状を知ること。また、日本の木材を選んだり、活用方法を考えたりすることが、水と、私たちをとりまく自然環境を守っていくのだという意識を持ち続けること。そしてそれを、周囲の人たちにも伝えていくことだと感じています。

優秀賞

水を使うということ

横浜市立大鳥中学校
三年　黒澤　心

「蛇口をひねっても水が出ない。」千葉県の小向ダムで貯水量が低下し、四八七〇戸で断水。昨年の十二月、そんなニュースを見た。断水になると、手が洗えなくなり、トイレも使用できなくなる。もちろんお風呂には入れない。私はそれを見て、私たちの生活に水は必要不可欠な存在だということを、改めて痛感した。同時に、人は一日にどのくらいの水を使っているのか気になり、調べることにした。

　すると驚いたことに、日本の生活用水の一人一日の平均使用量は二八九リットルだった。その中でも、飲料水としてお腹の中に入るのは、たったの二パーセントだけなのだ。こんなにも水を使っているのに、二パーセントしか飲料水になっていない。では、一体何に水を使っているのだろう。一番多いのはトイレで、二十八パーセント。次にお風呂で二十四パーセントである。お風呂よりトイレが多いのは意外かもしれないが、トイレ一回につき十リットルもの水を使うのだから当然だろう。

　しかし、人間らしい暮らしをするために一日に最低限必要な水の量は、僅か五十リットルだけだという。にもかかわらず、一日の水の平均使用量は、先程も述べたように二八九リットルと、約五倍になる。いかに私たちが水を大量に使っているかがわかる。

　では、どうやって水は私たちの元へやってくるのだろう。山や森に降ってきた雨が川に流れ、ダムに蓄えられる。そこから浄水場へ行き、薬を使って土や泥を除く。そして活性炭という炭に有害物質などを吸着させる方法やオゾン生物ろ過、紫外線などを使ってさらに綺麗にする。最後に消毒をし、ようやく安全な水になる。その水は、ポンプで送水されて蛇口まで送られる。このように、たくさん手間がかかるのだ。

　殺菌消毒をするにも、ポンプで水を送るにも、エネルギーを必要とする。エネルギーを使いすぎると、地球温暖化の原因である二酸化炭素が大量に発生してしまう。

つまり、水道水を使えば使うほど、二酸化炭素の排出量が増え、地球温暖化が進んでしまうのだ。

それを防ぐために今、私たちには何ができるのだろうか。それは、水をできるだけ大切に使うことだ。例えば、歯磨きをするときに蛇口の水を三十秒間出しっぱなしで口をすすいだ場合の水は六リットル。しかし、コップに水を入れて使った場合は三〇〇ミリリットルと、水の量をおさえることができる。他にも、洗濯は新しい水を使うのではなくお風呂の残りの水を使えば半分の量で済む。考えてみると、今日からでもできることはある。

私たちは、水が無いと生きていくことができない。しかし、水を使いすぎると過ごしにくい未来になってしまう。もっと、水を使うことの重みを知る必要がある。「水を使う」ということは、「水を消費する」ということだけではなく、地球温暖化につながっているということを認識して、過ごしていこうと思う。また、水を大切にしなければならない理由を理解し、意識して水を大切に使う人が増えたらいいなと願う。

優秀賞

水を使うということ

洗足学園中学校
二年　佐藤　明莉

お風呂にシャワー、炊事、洗濯、トイレなど、私たちは日常で当たり前のように水を使っています。しかし、「一日に何リットル使っていますか？」と訊かれて即答できるほど、日々の水の使い方を意識している人は少ないのではないでしょうか。当たり前のことだからこそ、しっかりと水について考え、使い方を見直す必要があると思います。そこで、水の使い方について考えていきます。

地域やライフスタイルによって多少差がありますが、日本人一人あたりの水の使用量は平均すると一日約二八九リットルだそうです。二八九リットル…一リットルのペットボトル二八九本分です。一人でもそんなに使っているなんて、と、正直とても驚きました。ちなみにヨーロッパでは平均一五〇リットルほどで、日本の約半分です。

さて、私たちは普段それほどたくさんの水を使っているわけですが、実は、人間らしいくらしをするために一日に最低限必要な水の量は約五〇リットルとされているのです。先程の二八九リットルと比べると約六分の一程度。とても少なく感じますが、本当にそれだけの水でくらせるのでしょうか。気になった私は、家族にも協力してもらい、一人一日五〇リットルまで水の使用量を減らすことを目標として、節水を徹底した生活をしてみることにしました。

朝の洗顔。洗面器に必要な分だけ水をはり、その水だけを使って顔を洗うことで約六リットルの節水になります。お風呂のシャワーはこまめに水を止めることで約二四リットルの節水に、外から帰ってきて手を洗うときも同様に、こまめに水を止めることで約八リットルの節水になります。洗濯はすすぎ一回にして約一五リットルの節水。お風呂のお湯は沸かし直して入れば約一二〇リットル節水できます。

これらを実践した結果、一人が一日に使った水の量は

約七六リットル。目標とした五〇リットルには届かなかったものの、約六五パーセントの節水に成功しました。

今回、水の使い方について自分なりに調べて実践してみて、少し意識を変えるだけでこんなにも節水につながるのだとわかり、これを続ければもっと節水に貢献できるかもしれないと思い、少し嬉しくなりました。

しかし同時に、私たちが普段どれだけ水を使いすぎてしまっているかということもわかりました。私たちのくらす日本では、水は蛇口を捻れば当たり前に出て、ものの一瞬で流れ去ってしまいます。しかし、それを決して当たり前と思わず、無駄にしてしまっていないか考え、常に節水を意識することが、水を大切に使っていくということの一歩になると私は考えています。今回わかったことをいかし、水を大切に使う生活をこれからも続けていこうと思います。

優秀賞

人と水との関わり

洗足学園中学校
二年　水谷　真菜

春休みに、祖父母の家がある山に行きました。木が生い茂り、川があって猪や鹿が住んでいる、まさに自然が集まる山です。そんな山の中の小さな川で、私は砂防堰堤を見つけました。

砂防堰堤とは、石流など上流から流れ出る有害な土砂を受け止め、貯まった土砂を少しずつ流すことにより下流に流れる土砂の量を調節する施設です。学校の理科の授業で、砂防堰堤がどのように土石流を防ぐのかという実験動画を見たときの、土石流がどんなに恐ろしいものなのかという記憶が鮮明に残っています。実験動画に映っていた川は大きく急な斜面にあり、いかにも危ない川でした。しかし、私が見た祖父母の家の近くにある川は小さく、実験動画に出てきた川のように危ない感じがしませんでした。私は、なぜ小さな川にまで砂防堰堤を作るのか、とても不思議に思いました。

私は、日々授業やニュースを見るたびに、人間が自然をどんどん壊してしまっていて、大げさだとは思いますが、このままだと人間がいつか自然を破壊してしまうのではないかと思っていました。木は水がないと生きていけないし、森は木がないと成り立たない。野生の動物も森林や水がないと生きていけない。まさに生態系です。これらは水がなければ成り立ちません。自然の全てを司っているような水を私達が汚してしまったら、生態系の全てを汚してしまうのではないかと思いました。

ところが、自然の全てを汚してしまうといって川や水に手をつけずに森をそのままにしてしまったら、異常気象で台風や豪雨などによってすぐに川が増水して山や森では土石流がおき、山の麓に住んでいる人々が被害にあってしまいます。そこで被害を出さずに自然を守る方法として、砂防堰堤を作ったのだと思いました。

そこまで考えて、私は本題の、なぜ祖父母が住んでいる山の小さな川に砂防堰堤が作られていたのかということへの答えが見えてきた気がしました。

山の小さな川を見たときに、祖父にその小さな川について聞いてみました。祖父によると、その川はもともと本当に小さな川で、そこに山の住民のお風呂の水などの生活排水が加わったことによって以前よりも川の水が増えたとのことです。人々が山を開拓したことによって川の水が増水し、山の麓の住民に被害が出る。それを砂防堰堤を作ることによって生態系を崩さずに住民への被害を出さないようにする。とても大切なことだと思います。

当たり前のことだとは思いますが、自分達がやったことを他の人へ迷惑をかけないように自分達でカバーすることの大切さを今回学びました。自然を崩さずに人間が生きていくことは不可能だと私は思います。しかし、自然を壊してしまっては私達は生きていけません。いい塩梅で自然と人間が共存していくためにはどうしたらいいのかをもっと真剣に、考えていかなければならないなと強く感じました。

優秀賞

生まれ変わった水と共に

洗足学園中学校
一年　山下　莉采

私の住んでいる地域には「江川せせらぎ遊歩道」があります。この遊歩道には季節ごとに色とりどりの花が咲き、川にはコイやメダカがいたり、鴨の親子が仲良く泳いでいるのを見ることができます。秋には毎年「森とせせらぎ祭り」が開催され、幼稚園から小学生の頃はスタンプラリーや絵てがみ展に参加しました。キラキラ光る水面に葉のボードを浮かべて競争したり、ザリガニを探したりと小さな頃から身近に触れ合っていた水辺を私はてっきり自然のものだと思っていました。実は雨水貯留管を利用した再生水だと知ったのはずいぶん経ってからのことです。

ある日、せせらぎ遊歩道を通ったら水が全くなくなっていたのです。魚もいなくなっていて心底驚きました。後になってから、生き物は上流に移して水路の藻を干す清掃を定期的に行っていることが分かりました。その時にこの小川は人工的に作られたことを初めて知りました。

せせらぎを流れている再生水は、雑用水ともいい、飲み水以外に利用する水のことです。以前江川は生活用水として利用されていましたが、急激な都市化により水質が悪化し、悪臭を放つドブ川になっていました。その後、役目を終えて廃川となった跡地に、雨を一度貯めて等々力水処理センターできれいな水にして流す貯留施設が作られ、平成十五年、現在の姿になりました。この水路を流れる水は、高度に処理されているため、不純物が交じらず微生物などのエサや隠れる場所がないため生き物は生息せず、他の場所から放流することで自然の水質に近づけています。

今では、市民の憩いの場として親しみをもつ生活空間を形成しているほか、雑用水を利用することは節水にもつながり、渇水時にも役立ちます。都市部では雨水を浸透させることができる森林等が減少しており、大雨が降った時の氾濫や浸水被害をこの水路によって防ぐことができます。

せせらぎの水について調べたことで、水には水道水など飲用に適した「上水」、生活排水や産業排水、雨水などの汚水を集約して処理する「下水」の他、飲用には適さないけれど、雑用、工業用などに使用される「中水」と呼ばれる水道があることを知りました。中水は水を再利用しているため、環境にやさしく水道料金のコスト削減にもなります。消火、水洗トイレ用水、冷却、冷房用水、植物の散水などは上水を使用するのはもったいなく、中水をもっと活用していくことで、限りある水資源を有効に使えるようになります。しかし、中水の利用は、まだ上水道使用量の三パーセントほどしかないそうです。せせらぎ遊歩道のような環境に配慮した技術が今後増えていってほしいと願うとともに、家庭でもできる中水利用―お風呂の残り湯を洗濯に使ったり、雨水をためて植木の水やりをするなど積極的に取り組んでいきたいと思います。

久しぶりに江川せせらぎ遊歩道に散歩に行ったら、草花が生き生きと咲き、蝶が舞い、小魚の群れが元気に泳いでいました。この景観は決して自然に出来上がったものではありません。自治体と、地域の方が協力して維持、管理しているからこそ保てているのだと実感しました。次の清掃作業の時には私もボランティアに参加して、せせらぎを守る一員になりたいです。

入選

みんなの水

横浜市立南高等学校附属中学校
一年　佐々木　久美

私が生まれてから十三年間、水を使わなかった日は一度もないです。おふろもトイレも、料理や掃除にだって使います。そして、飲むためにも使います。それはいつも、とう明できれいで、おいしい。小さいころはあたり前だったけれど、小学四年生になって水の大切さにふれる機会がありました。

私が住んでいる町から近い、宮ヶ瀬ダムへ校外学習に行った際、宮ヶ瀬ダムの歴史と役割を学びました。まず、宮ヶ瀬ダムは、宮ヶ瀬という町がしずんでできたダムだと知りました。当然、町の人たちのほとんどは、反対しました。自分の住んでいる町をダムにしたい、と言われたら、私は反対すると思います。でも、みんながきれいな水を飲めるなら、と賛成してくれた人もいたから、宮ヶ瀬ダムができたのだと思ったら、心があたたかくなったのと感謝の気持ちでいっぱいになりました。そして、そのダムの役割は、ダムにたくわえた水を川に放流し、浄水場まで運ぶことです。放流の時のいきおいは、迫力満点でした。その後、小雀浄水場では水をきれいにするまでの手順を見学しました。最初に沈砂池で砂をしずめ、次に沈殿池でにごりの固まりを作りしずめます。そして、ろ過池で小さなにごりや細菌を取り除いたら、送水ポンプでみんなの家にきれいな水が送られます。蛇口をひねって水が出るまでに、長い時間と手間をかけることにおどろきました。ダムと浄水場の見学を終えてから、水に関心を持つようになりました。歯みがきやシャワーの時に、水を出しっぱなしにしないようにして、水を使う時間を省いたり、おふろで浴そうに貯めた水を使い終わったら洗濯で使い、水を再利用するなど、日常の中の水の無駄使いを減らすようになりました。

小学六年生になると、四年生や五年生と比べて、さらに学習の視野が広がり「ＳＤＧｓ」について学びました。ＳＤＧｓとは日本語で持続可能な開発目標の略称で、国連加盟一九三か国が二〇三〇年までに達成するために掲

げた一七の目標です。私はその中の「安全な水とトイレを世界中に」というタイトルで、すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保するという目標に興味を持ちました。インターネットで調べると、水道設備がまだ整っていない、マダガスカルに住む女の子の記事がありました。その子は、朝早くに起きて水くみに出かけます。水汲みには往復一時間もかかる上、家族分の水を一人で運ぶため、朝と学校帰りと夕方の三回水くみに出かける必要があります。しかも、時間をかけて汲んだ水は、とても衛生的とは言えないろ過されていない水です。そんな水を使ったり飲んだりするので、体調をくずしてしまうこともあるそうです。毎日毎日、重い水を運んで、ろ過されていない水を使ったり飲んだりする生活は今の日本では考えられないです。何かできることはないかと考えた末、たどりついた答えは募金をすることでした。国際連合児童基金と国内委員会は、約一九〇の国と地域で、子どもたちの命と健康、権利を守るために活動しています。その募金で、きれいな水を使えるようになった子が増えたそうです。

私がこの作文を通して伝えたいことは、「きれいな水を飲んだり使ったりすることができるのはあたり前ではない」と言うことです。それは、ダムにするために自分の町をはなれた人、ダムや浄水場を造ってくれた人、水を浄水場できれいな水を作ってくれる人、それを各家庭に届けるための水道管を作ってくれた人、数えきれない人達が関わっています。いつかは、全世界の人々が安全な飲み水や生活水が使えるように募金や、海を汚さないようにしていきたいです。

入選

人口密集地の水循環

洗足学園中学校
一年　野口　明日美

私の住んでいる横浜市には、昭和五十年代頃までよく洪水を起こしていた鶴見川があります。小学三年生の夏休み、鶴見川の源流から下流までをたどるツアーに参加しました。その土地に降った雨が全てその川に流れ込む範囲を流域というのですが、流域に降った雨が最後には一つの川の流れとなって海に流れ着きます。そして海まで流れ着いた水は雲となり、再び流域に雨となって降ってきます。このサイクルを、水循環といいます。水循環系の中で私たちは様々な形で水を使っています。そのため、私たちが水を使いすぎたり汚したりしてしまうと水循環系のバランスは崩れてしまうので、健全な水循環系を作り、保ち続けることが大切だそうです。健全な水循環系のための、五つのポイントがあります。

一つ目は、洪水の対策をすることです。昔はたくさんの森林や田畑に雨が染み込んで、ゆっくりと川に流れ込んでいたのに対して、現在は地面の多くがアスファルトや建物で覆われて水が浸み込まなくなり、雨水が一気に川に流れ込むことで洪水が起こりやすくなってしまっています。私は鶴見川のツアーで洪水対策の設備を見学したのですが、洪水が起こりそうなときに多目的遊水池や調節池に水を入れて川の水量を減らす取り組みがされていました。多目的遊水池は普段、公園やグラウンド、テニスコートなどとして利用されていました。晴れているときは人々の運動や遊びの場所だけれど、大雨のときは水害から暮らしを守る遊水池になります。上手に土地を利用しているとても良い取り組みだと思います。

二つ目は、きれいで豊かな水の流れを取り戻すことです。鶴見川は昭和四十年頃、水質汚濁が進みました。しかし下水処理場が整備され、私たちの生活で使われて汚れた水をきれいにすることで川の水がきれいになっていきました。実際ツアーの途中で鶴見川に入り、ドジョウや小さなエビなどの生物観察をしたことがあるのですが、水は透明度が高くてきれいでした。

三つ目は、自然を守り、未来に残すことです。自然の木々は緑のダムとも呼ばれるように水を蓄え、洪水を防いでくれます。

四つ目は、いざというときのための準備です。川は大地震などで道路が使えなくなっても必要な物を運ぶことが出来ます。また、火事の消火に川の水を使うこともできます。

五つ目は、流域や川と人がふれあえる場を作ることです。流域や川のことを知ってこそ、健全な水循環系のために何ができるのか考えられるはずです。

例えば、家庭の屋根面積が土地の二割を占める横浜市では、雨水貯留タンクの設置に補助金を出しています。森林、水田などの減少により雨水が浸透しにくい地域が拡大したことで、局地的な大雨への対策や水循環の再生強化が必要になったのです。我が家でも二〇一八年の六月に環境創造局管路保全課へ申請して、百リットルの雨水貯留タンクを設置しました。それ以降は異常気象でない限り、タンクの水だけで自動車二台分の広さの家庭菜園で使う水をまかなうことが出来ています。また災害時には、トイレを流すための水としても活用することが出来ます。雨水貯留タンクを設置する家庭が増えれば洪水や災害への対策になり、水の節約や水循環系を良くしていくことにつながります。

このような健全な水循環系のための取り組みは、私たちの生活環境を良くしていくことにもつながります。他人事としてとらえるのではなく、健全な水循環系のための取り組みは、企業や行政、市民が協力して行っていくことが大切だと考えます。

入選

水と環境

洗足学園中学校
一年　三輪　桃愛

私の短い人生を振り返ってみると、常に美しい水の流れる川がそばにありました。オーストラリアのパースに住んでいた時、家の近くにスワンリバーという美しい川がありました。海から上ってきたイルカやペリカンなどたくさんの生き物が自由に海と川を行き来する、自然にあふれた川でした。また、岐阜県に住んでいた時は、木曽川がそばにありました。木曽川では、近所の友達や兄と一緒にザリガニを捕まえたり、水遊びをして週末をすごしました。しかし、こういった自然いっぱいの川や海も今は危険な状態にいます。それだけではなく、そこに住む生き物たちにも影響を及ぼしています。二千二十一年になった今、地球の環境を良くするために、私たちには何ができるのでしょうか。

私が最初に環境問題に興味を持ったのは、イギリスのロンドンに住んでいた時でした。イギリスは日本と比べて、使い捨てプラスチックの問題や海の生物が関係する環境問題に対して、より積極的に取り組んでいました。私が通っていた現地校でも地理の授業の一環で、カメラマンである友人の父が私の学校を訪れて、環境問題についてスライドを使いながら詳しく、分かりやすく説明してくれました。そのスライドの中で、世界中の海で撮った、プラスチックの袋に絡まったカメの写真や、大量のゴミを食べ物と間違えて食べてしまったイルカの写真を見せてくれました。この時、私は改めて地球の大切な水を汚染していることに気づきました。

また、最近新聞やインターネットで読む記事では、工場などからの産業排水のほかに、台所や風呂、トイレなど日常生活の営みから出される生活排水があり、それらが主に川を汚染しているということを学びました。

水の汚れは、かつては産業排水が主原因でしたが、工場などに対する規制が強化され、排水処理対策の進んだ今日では、生活排水が汚れの大きな原因となっています。

これ以上水質を悪化させないために、買い物にマイバ

ッグを持参する、など、日常からできる対策を、世界中の人々が意識し、行っていく必要があります。

私は、家でポリエチレンラップの代わりにビーラップというプラスチックで作られていないラップを使っています。その上、炭酸水が大好きな私は、以前はプラスチックのボトルに入ったものを購入して飲んでいましたが、数ヶ月前に家で炭酸が作れる機械を購入し、毎日それを使って炭酸水を飲んでいます。他には、いつでもどこでも水筒を持ち歩くようにして、ペットボトルの飲み物を買わないようにしています。

このように、私は私なりの方法で、少しでもプラスチックを排出する量を減らす努力をしています。

産業排水や生活排水、プラスチックなど、さまざまな原因で水は汚染され、生態系の破壊などといった悪影響を世界中に及ぼしています。「持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）」など世界的な水質改善対策も推進されていますが、まず一人一人が水の大切さを意識し、生活の中から水質汚染の原因を減らしていくことが重要だと思います。ちりも積もれば山となる。一つ一つは大きいことでなくても、世界中の人々が少しずつ努力をしていけば、必ず大きな変化がおとずれます。

水源環境賞

「水」はすこやかな森からの贈り物

洗足学園中学校
二年　中田　莉世

心地の良い音を立てながら川が流れる森は涼しくて、いいにおいがする。上を見上げると木々が優しい風にゆらされ、緑の葉の間から森の中に太陽の光が差している。地面はふかふかな土と落ち葉が重なり森全体を包んでいる。これは私がある企業のプロジェクトで白州の森の中を探検したときの一瞬を切り取った様子だ。伝わるだろうか。私はこのとき、確かにこの白州の森に惹き込まれた。初めて来た場所なのに心が落ち着き、爽やかな気持ちになった。そんなこの森の中でも特に存在感を放つ、「水」について担当者の方の話を聞き、初めてのことをたくさん知る中で普段自分が当たり前に使っている「水」に向き合うことで今まで感じることのできなかった「水」というものの中に見えてくる道や歴史を感じることができた。

川を流れる透き通った水、生きるために絶対に必要な毎日飲む水、毎朝顔を洗うために使う水、私は今までこれらがすべて「水」でもどこか違うものに感じてしまっていた。毎日の生活に欠かせない存在である「水」を身近に感じ、考えることができないと水をなぜ大切にしなければいけないのか分からないまま過ごしていってしまうのではないか。

白州では「水」の中でも「天然水」というものに特に注目して学んだ。まず、天然水は雨が森の中に降り注ぎ大地へと浸透していくところから始まる。雨の水が地面へと染み込み、地中の奥深くに潜っていくにつれて、その水は地層のミネラルをしっかりと含み、約数十年という歳月をかけて「天然水」へと磨き上げられていく。「天然水」が磨き上げられていくにはまず、スタートとなる雨が森の中へ降り注ぐというときに雨の水を受け止めるふかふかな土が必要となる。しかし、せっかくふかふかな土ができても山が崩れてしまっては意味がないため、土をしっかりと支えるネットの役割をする木々もとても重要になる。また、ふかふかな土がありその土を支

える植物も豊富になるということは、それらを食べる動物の種類も増えてくる。そのようにして森は豊かですこやかな森になっているのだ。しかし私はここで「へーすごいなあ。」で終わらせてはいけないと感じた。なぜならこのすこやかな森が今この瞬間まで続き自分たちの生活に欠かせない水とつながっているのは自然のとても不思議で、大きく強い力によるものだが、この状態がずっと自分たちの世代あるいはその次、またその次の世代まで何もせずに続くわけではないからだ。「水」を、すこやかな森を、いつまでも続けていくために今、人の力で木々を整備しふかふかな土を守ったり、木がなくならないように生態系を崩さないようＤＮＡまで調べて苗を作るなど努力がなされている。私は、変わり続ける環境に適応しいつまでも「水」があり続けるために、すこやかな森がずっとあり続け私が体験したように自然の心地良さ、力がいつまでも感じられるように、今されている努力を自分たちの世代でも続けながら進化した活動に挑むことが必要だと思う。

雨、ふかふかな土、強い木々、様々な動物たち、また自然の恵みを毎日生活の中に取り込んでいる自分たち人間。これらすべてがお互いに影響し合い、バランスを取り、これからもずっとすこやかな状態であり続けるために力を出し合う。そんな大きなこと、未来、またこれまで森が支え合って存在してきた歴史、すべてが詰まった「水」だからこそそのことを感じ、大切にしなければならない。私はまた今日も生きるために、未来でもずっと「水」を大切にし続ける思いを持ち、「水」を使っていく。

水源環境賞

川を守るために

洗足学園中学校
二年　渡邊　真央

いろいろな種類の美しい花が近くにたくさん咲いている立会川。そんな立会川の近くに私は住んでいます。立会川は、見た目が緑っぽい色をしていて、ただ正直、あまりきれいというイメージは私にはありませんでした。しかし、立会川は平成十年の水質検査でＢＯＤが９．４ミリグラムパーリットルだったのが現在は１．７ミリグラムパーリットルにまで改善されました。ＢＯＤとは汚れの度合いのことで、通常、鮎がすめるきれいな河川の水質は５ミリグラムパーリットルなので、立会川はとてもきれいな川になったことを知りました。そして、私が思っていた以上に立会川がきれいになるまでにたくさんの地元の人たちの努力があったことを知りました。

まず、私は小学五年生のときに参加した、立会川美化運動のことを思い出しました。この運動は、「川の日」である七月七日に合わせて平成九年に始まり、「魚のすめるきれいな立会川にしたい」という地域の強い願いから始まったそうで、立会川やその周辺地域の環境を美化し、川をきれいにすることへの市民意識を上げるようにしているものです。私も美化運動で、「ごみのポイ捨てはやめましょう。」、「川を大切にしましょう。」などと言ってスピーカーを片手に歩き回りました。この美化運動によって、「立会川は、緑に囲まれていて、きれいで魚がたくさんすんでいる川」と言えるようになれたら良いなと思いました。

そこで、川の汚れの主な原因について調べてみました。まず、川の汚れの原因は、工場などからの産業排水や畜産などからの排水のほかに、台所や風呂、トイレなど日常生活の営みから出される生活排水があります。水の汚れは、かつては産業排水が主な原因でしたが、排水処理対策の進んだ最近では、生活排水が汚れの大きな原因となっていることが分かりました。家の台所から出た水は、単独処理浄化槽、公共下水道や合併処理浄化槽などを通って川などへ流れています。このうち単独処理浄化槽で

は、生活排水がそのまま川へ流されてしまい、生活排水が川の汚れの原因となります。また、公共下水道や合併処理浄化槽では生活排水を処理してから川へ流されるので、生活排水をきれいにするために大量の水が必要となります。つまり、どれを通って川へ流されたとしても、それぞれの家庭で生活排水をきれいにしてから流さなければ、大量の水が必要になってしまうということなのです。

さらに、魚は、川がどのくらいきれいになったらすめるようになるのかを調べました。例えば、味噌汁を流した場合、魚がすめるようにするためには、その量の約七〇〇〇倍の水で薄めなければならなくて、台所用洗剤を流してしまった場合は、約四二〇〇〇倍のものすごい量の水が必要です。それを知ったとき、私は今までどれだけの水を無駄に使ってしまったのだろうと衝撃を受けました。だから、これからは生活排水をできるだけきれいにしてから流すために、料理は作りすぎに注意する、調理くずや食べ物の残りを水と一緒に流さないために水切りネットや三角コーナーを設置することなどを取り組んでいこうと思いました。そして、これらのちょっとした事をきちんと行うだけでも、大きな効果が期待できると考えました。

このように私は、立会川は家の近くにある川なのにも関わらず、ほとんど知らなかったことに気づかされました。地域の人たちの努力や、川の汚れの原因についてもよく知らなかったのです。なので、水を無駄に使っていかないためには、たくさんの人が現状を知り、実行することで、川の水質の改善につながっていくのだな、と考えました。また、普段何気なく使っている『水』に感謝することも大事だと思います。

水源環境賞

水を守るためには

洗足学園中学校
二年　渡邊　莉子

水は私たちが生活する上でなくてはならないものである。飲み水としては勿論、農業や工業などにも使われる。でも水は無尽蔵にある訳ではない。他人事としか考えた事がないかもしれないが、汚れた水を飲んで命を落とした人はたくさんいる。水の惑星と言われている地球でも地球上で飲料水として利用できる水はわずか〇・〇一％しかなく、世界人口の二十三％に相当する十二億人の人々がこの問題で生活に支障をきたしている。私達もいつ当たり前の様に水が使えなくなるか分からないのだ。

ならば私達は何をしたら良いだろうか。

そもそも、私達が生活するための水はどのようにして私達のもとに辿りつくのだろうか。私達が毎日使う水の主な源は川の水であり、その大もとは雨水である。雨が降り、川や地下水となって海へ戻り、蒸発してまた雲をつくって雨を降らせる。地球の水は太古の昔からこのように循環しており、その中で人々は主に川から水を利用しているのだ。勿論有害な物質も含まれているので浄水場をはじめとする様々な施設を通して水は私達のもとへ運ばれている。そして使われた後の水である生活排水は、下水処理施設できれいな水にしてから川や海に戻される。

しかし、当たり前のことだが水だけでは勝手に循環することはない。太陽や森林、生物など色々なものの影響によって水は循環しているのだ。私はその中で森林と水との関係性について調べることにした。

森林は雨が川や地下水になるまでの中継としての役割を果たしている。まず、雨が降って斜面を走り、一つの水のかたまりとなって川ができる。大雑把に言うと川がこのようにしてできるのはなんとなく察しがつくだろう。次に、川にならずにたまった水は土の中に浸透して何十年もの時間をかけてゆっくりと下に落ちていく。そしてこれ以上下に降りることのできない地層にぶつかった時、横に流れて地上や海に溢れ出す。それが地下水だ。つまり森林は常に水を溜めているのでダムのような働きをし

ている。森林を守ることは、水を守ることにも繋がるのだ。

では具体的にどうやって森林を守ればいいだろうか。本来、森林を含む自然は回復能力を持っているため、自然に回復し森林面積を著しく失うことはない。しかし農地開発や過剰伐採、過剰な焼き払いが回復速度を超えて行われると森林は失われる一方だ。ならば回復速度を超えてしまった分を戻すことで、森林をまた再生させることができるのだ。実際に行われている取り組みの中で二つ紹介する。

一つ目は、森林認証マークだ。森林認証マークは合法性や持続可能性を保証するものであり、適切に管理された森林の木材を利用していることを、第三者機関が認証するもので、消費者である私たちが、木材や木材製品を選ぶ上での一つの指標とできる民間の制度だ。企業努力を応援する形で商品を購入することで、違法伐採などを減らすことができる。

二つ目は、地球温暖化を緩和する取り組みだ。地球温暖化や気候変動は、森林の減少や劣化に影響している。近年頻発する森林火災の原因の一つには気候変動による異常少雨や乾燥、熱波などが関係している。冷暖房機の設定温度を調節して過剰に使わないことや、自動車ではなく電車を使うなどをすれば、森林を少しでも守ることができるのだ。

第 43 回「全日本中学生水の作文コンクール」
神奈川県優秀作文集

発　　行　：令和３年 10 月
発　行　元　：神奈川県政策局政策部土地水資源対策課水政室
電話　(045)285-0049(直通)

神奈川県
政策局政策部土地水資源対策課水政室　水政グループ
横浜市中区日本大通１　〒231-8588　電話(045)285-0049（直通）